

特集 「良質な医師を育てる研修」

内科救急NHO-JMECC 指導者講習会

JMECC(ジェイメック:Japanese Medical Emergency Care Course)とは、救急医療に接することの少ない内科医が、心停止時のみならず、緊急を要する急病者に対応できるように、日本救急医学会策定の「ICLS」を基礎に、日本内科学会独自の「内科救急」をプログラムに導入した、技術習得を中心とした講習会です。(日本内科学会JMECC設立趣旨より)

NHO-JMECC 指導者講習会で 指導者となり、教えることで、 何倍もの学びを得る。



国立病院機構
京都医療センター
感染制御部長
総合診療科・感染症科長
日本内科学会 JMECC 指導者
講習会ディレクター
小田垣 孝雄

PROFILE

出身地 : 京都府(兵庫県北部育ち)
出身大学 : 宮崎医科大学(現・宮崎大学医学部)(1998年卒)
宝物 : 毎年、最寄りの神社での初詣のお神籤に入っている石を財布に入れて持ち歩いています。今年の石は「ソーダライト」です。
座右の銘 : 一隅を照らす(私、比叡山をみながら早朝ウォーキングをしています。50歳で始めて13年目に入りました)

日本内科学会認定の内科救急のシミュレーション講習会であり、
内科専門医の資格取得に必修であるJMECC(ジェイメック)。
NHOではJMECC講習会だけではなく、JMECCの指導者を養成する
『内科救急NHO-JMECC指導者講習会』も実施しています。
JMECC認定のディレクターである京都医療センターの
小田垣孝雄先生に、JMECC指導者講習会やNHOの
“良質な医師を育てる研修”の魅力などについて話を伺いました。

『内科救急NHO-JMECC 指導者講習会』について

2022年11月21日、京都府医療トレーニングセンターにてNHO主催によるJMECCの指導者講習会である『内科救急NHO-JMECC指導者講習会』を開催し、全国各地のNHO病院から18名の先生方が参加



してくださいました。

JMECC指導者講習会は、JMECCの講習内容の習得ではなく、指導者であるインストラクターの養成を目的とするものです。

この指導者講習会では、JMECC用のテキストや指導要綱を読み込んで理解していることを前提に、指導者としての基本的態度、プレゼンテーションの方法、指導スキルの基本を身につけていただく内容となっています。

2022年11月21日に実施した指導者講習会では、参加していただいた18名の先生方を6人1グループ

として3グループに分け、1グループにつき2名のインストラクター、そして全体をみるディレクター1名による指導を実施しました。

指導者講習では、通常のJMECCと同じ環境で、指導者役と受講者役に分かれ、シミュレーターや医療器具(除細動器、喉頭鏡、注射器など)を用いながら、シナリオに基づいて実際に指導を行っていただきます。その後、良かった点、伸びしろのある点などを参加者全員で振り返りながら共有し、指導者としてのノウハウを獲得していきます。

NHOの“主催”として 開催する意義

NHOでは、2010年からスタートした“良質な医師を育てる研修”のなかの数ある研修の一つとして、2014年からNHO主催によるJMECC講習会を開催し、2015年度からはJMECCの指導者を養成

する『内科救急NHO-JMECC指導者講習会』も実施しています。

内科専門医の資格認定試験の出願要件の一つに「JMECCの受講実績があること」があり、JMECCが内科専攻医に必修の講習会である以上、内科専門医プログラムの基幹施設は自施設にてJMECCが開催できなければ、研修が円滑に進まない可能性も出てきます。



NHOでは、早期からJMECC認定のディレクターやインストラクターなどの指導者を育成しており、NHOの内科専門医プログラムの基幹施設の多くでJMECC講習会を自

NHOの“良質な医師を育てる研修”（受講料無料・宿泊交通費支給）は、全国のNHO病院の経験豊富なスペシャリストから指導を受けることができ、さらに全国各地からの参加者たちと交流ができるのも魅力。

コロナ禍によってしばらく研修を中止していましたが、現在は感染症対策に十分留意しながら徐々に再開しています。

今回の特集では京都医療センターの『内科救急NHO-JMECC 指導者講習会』（2022年11月21日開催）と仙台西多賀病院の『神経・筋（神経難病）診療中級研修』（2022年11月12日開催）についてレビューします。

前で実施しています。

一方で、指導者を養成するJMECC指導者講習会においては、日本内科学会の主催が基本であり、開催場所が東京都に限定されていることから、北海道や九州、沖縄など遠方のNHO病院から参加するには時間的、空間的制約といった大きなハードルがありました。

NHOでは、これまでのJMECC講習会への参加実績や、指導者講習会を3ブース開催できるだけの指導者講習会認定ディレクター、ブース長、インストラクター資格を有する医師が揃っているということもあり、日本内科学会より承認をいただき、NHOの主催としてJMECC指導者講習会も実施できるようになりました。

これによって、今回の京都府での開催のように各地域でNHO主催による指導者講習会の開催が可能となり、全国各地のNHO病院からも参加しやすくなりました。

現在、NHOにはJMECC認定のディレクターが私を含めて10名。インストラクターは112名います。（2023年2月時点）

“良質な医師を育てる研修”の魅力とは

私自身、これまでJMECCの認定ディレクターとしてJMECC講習会やJMECC指導者講習会に携わり、NHOの全国各地の先生方と交流してきたことで、たくさんの刺激を受け、多くのことを吸収してきました。

NHOの各地域のJMECCのインストラクターやディレクターと講習会を行ってきたことで、それぞれの指導者としての考え方や視点を学ぶことができ、「こういう指導の仕方もあるんだ」と、講習会の度に多くのことを学んでいます。

NHOは北海道から九州、沖縄まで、全国に140もの病院を展開する病院グループです。他の病院グループにはない全国規模の巨大なネットワークが特徴で、急性期から慢性期、さらに政策医療といった一般の病院では経験できない領域まで幅



広い医療を提供しています。NHOの各病院はそれぞれに得意分野をもっており、その分野に精通した経験豊富なスペシャリストたちがいます。“良質な医師を育てる研修”といった合同で若手医師を育てる研修会や、NHOの学会（国立病院総合医学会）など、自院に限らず全国各地のスペシャリストたちからも学べる環境は、NHOならではの大きな魅力でしょう。初期臨床研修や専門医研修、キャリア形成において、自信をもってお勧めできる環境です。

今後のNHOに期待していること

医師教育はon the job trainingが主体ですが、誰からも非難されず安心して失敗できるoff the jobのシミュレーション教育は若手医師の学習機会としてまだまだ重要で、発展途上でもあると思います。大学のようにシミュレーションセンターを備える病院が増えていけばと願っています。

教育は、「知識（あたま）、情熱（こころ）、技能（からだ）」の3つの領域をどのように組み入れていくかが重要です。新型コロナウイルス感染症対策によって、講習会のほとんどがオンラインによるリモート開催になりましたが、体を動かして習得する領域は対面による講習が適しています。

医療シミュレーション講習の教育到達目標は、学習者が実際の現場で正しく行動できることです。受講の翌日から現場で使えるように、①臨床現場に近い環境で、②指導者が学習者の表情やしぐさを細かく観察し、③最適のタイミングで学習者の省察を促すことが重要です。

コロナ禍によって、対面による講習や技術トレーニングによる教

育は縮小、中止されましたが、10年後、20年後の医療の現場で活躍する原石の研磨をもう止めておくことはできません。ここ数年開催が中止されていた他の“良質な医師を育てる研修”もコロナ禍前のように開催され、NHOでの若手医師の研修が活性化することを期待しています。

医学生や若手医師たちへのメッセージ

『内科救急NHO-JMECC指導者講習会』に参加することは、指導者としてのノウハウはもちろん、医師としての大きなスキルアップにもなるはずです。“Teaching is learning twice over.”（教えることは2度学ぶことである）という格言があるように、JMECCのインストラクターとなり、講習会で指導することで2度学ぶことができ、指導する度に新たな学びがどんどん蓄積されていきます。

JMECCにおける指導者としての役割だけではなく、病院での指導力や医師としてのスキルアップのために、一人でも多くの医師がJMECCの指導者を目指していただけたらと思います。

NHO-JMECC 指導者講習会

NHO 講師

病院名	役職	氏名	役割
京都医療センター	診療部長（感染制御担当）	小田垣 孝雄	ディレクター
東京医療センター	救命救急センター医長	鈴木 亮	インストラクター
京都医療センター	救命救急科医師	田中 博之	インストラクター
大阪南医療センター	腎臓内科医師	大森 弘基	インストラクター
岡山医療センター	救急科医長	宮地 克維	インストラクター
広島西医療センター	副院長	鳥居 剛	インストラクター

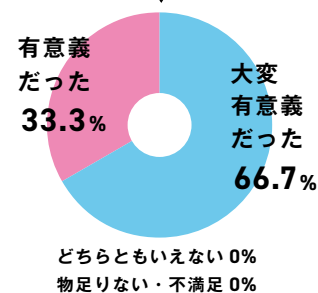
SCHEDULE 2023

令和5年度開催予定の「良質な医師を育てる研修」一覧

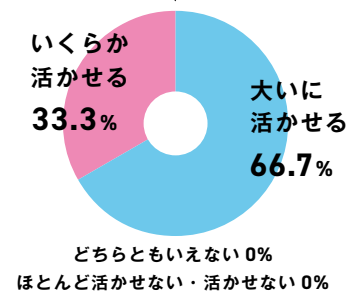
研修名	開催予定月
病院勤務医に求められる総合内科診療スキル	6月下旬
センスとスキルを身につけろ！未来を拓く消化器内科セミナー	9月上旬
神経・筋（神経難病）診療中級研修	9月下旬
肺結核・非結核性抗酸菌症・真菌症－NHOのノウハウを伝える研修	9月
内科救急NHO-JMECC指導者講習会	11月
呼吸器疾患に関する研修	2024年2月
循環器疾患に関する研修	2024年2月
小児疾患・小児救急に関する研修	2024年2月

RESEARCH セミナー参加者の声

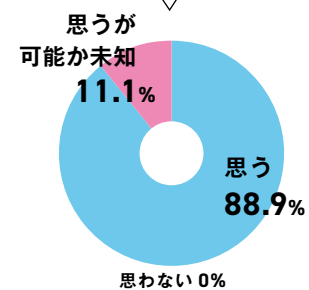
Q 研修の感想は？



Q 今後に活かせる？



Q JMECC 指導者を 目指したいと思う？



神経・筋(神経難病)診療中級研修



講師と全国からの参加者同士の交流による インタラクティブで有意義な研修

NHOが担う政策医療の一つ、神経・筋疾患領域の研修である、

『**神経・筋(神経難病)診療中級研修**』が2022年11月12日に、仙台西多賀病院にて開催されました。
講義を行った仙台西多賀病院の武田篤院長、内科系診療部長の高橋俊明先生、脳神経内科医長の馬場徹先生に、
講義のポイントやNHOの“良質な医師を育てる研修”に参加する意義などについてお話を伺いました。

『神経・筋(神経難病)診療研修』 について

武田…『神経・筋(神経難病)診療研修』は、NHOが担う政策医療の一つである神経・筋疾患領域の研修であり、初級・中級・上級といったコースに分けて開催しています。

2022年11月12日に仙台西多賀病院にて開催した『神経・筋(神経難病)診療中級研修』では、中級コースということで神経内科を含むある程度の診療経験がある30代前後の先生方を中心に、NHOの全国各地の病院から10名が参加してくださいました。

高橋…プログラムとしては、朝9時より神経・筋(神経難病)をテーマと



した4つの講義、昼休憩を挟んで午後からは症例ディスカッションを行いました(17時終了)。

講義は一コマ40分で、「パーキンソン病について」(講師:武田篤)、「筋ジストロフィーについて」(講師:高橋俊明)、「高次機能診察について」(講師:馬場徹)、そして東北大学てんかん学分野准教授である神一敬先生を講師に「脳液について」の4つの講義を実施しました。

午後の症例ディスカッションでは、参加者が2つのグループに分かれ、「医療倫理」をテーマに、提示された症例に対して『インフォームドコンセントをどうとるか?』などについて約2時間のディスカッションを行いました。

通常であれば、研修終了後は懇親会による交流や情報交換などを行い、翌日の午前中に追加の講義を行うのですが、新型コロナウイルス感染症対策として、1日のみタイトなスケジュールでの開催となりました。

研修内容や講義のポイント

武田…近年、高齢化の加速に伴いパーキンソン病患者が増加しており、高齢者医療の大きな課題にもなっています。講義では、パーキンソン病における実臨床の場でしばしば遭遇するであろう問題や、最近のトピックスになっている症例をいくつか提示し、診断や治療方針を決める際の注意点などをディスカッションを交えながら学んでいただきました。日常的に遭遇するパーキンソン病の診療のコツをわかりやすく伝えることができたと思います。参加者からのアンケートでも、『非常にわかりやすかった』、『大きな学びを得た』という回答を多くいただきました。

高橋…筋ジストロフィーは難病で治療法がないというイメージが先行していますが、近年、研究の進歩によって新しい薬や治療法の開発がどんどん進められています。そうした現状も知っていただくため

国立病院機構
仙台西多賀病院

パーキンソン病

院長
武田 篤



PROFILE

出身地：青森県弘前市
出身大学：東北大学(1985年卒)
宝 物：医師人生を歩んで築いて来た人脈
座右の銘：Try not to become a man of success, but rather try to become a man of value.

筋ジストロフィー

内科系診療部長
高橋 俊明



PROFILE

出身地：秋田県
出身大学：弘前大学(1993年卒)
宝 物：今までお世話になった方々
座右の銘：人間は考える葦である。

高次機能診察

脳神経内科医長
馬場 徹



PROFILE

出身地：栃木県鹿沼市
出身大学：群馬大学(2003年卒)
宝 物：研究仲間
座右の銘：神は細部に宿る



に最新の治療を中心に講義を行いました。

さらに、当院が東北で初導入(2016年12月)した、歩行障害を改善する医療用下肢タイプロボットスーツ「HAL®」を装着したデモンストラレーションも実施しました。本来であれば「筋ジストロフィー病棟」の回診も見学していただきたかったのですが、残念ながら新型コロナウイルス感染症対策のため断念としました。

馬場…高次機能診察は、脳血管障害や神経変性疾患に起因する言語・思考・記憶などの高次脳機能障害を診察をしていく上で重要なものですが、体系的に教わる機会が少なく、



高次機能診察に対してアレルギーを抱いている若い先生方も多くいます。そのため、シンプルにわかりやすく、エッセンスだけでも覚えていただける講義を意識しました。

講義では、脳血管障害や神経変性疾患に起因するさまざまな症状をわかりやすく理解していただくため、参加者のみなさんに大脳半球の絵を描いていただきながら、脳の各部位がどのような機能を果たしているか、一つひとつ説明を行いました。絵を描きながら学ぶことで理解が深まり、また自分で絵を描きながら説明できるようになることで、さまざまな症状を理解できるようになります。

“良質な医師を育てる研修”の魅力とは

高橋…全国各地から、所属病院も経験もバックグラウンドも異なる参加者の方々が一つの場所に集まり、講義やディスカッションによって、一人ひとりの意見や考え方が集約されていくことで大きな学びを得ることができます。NHOの各病院が得意としている領域を、かなり深いところまで学ぶことができる他にはない貴重な機会であり、若い先生方にはこうした機会を存分に活用してほしいと思います。

武田…今回の研修では、各講義が終わったあとの質疑応答も盛んであり、休憩時間に質問に来られる先生もいました。こうした熱気は講師たちにも影響し、次回の講義にも活かされるなど、“正のスパイラル”も生まれます。

残念ながらコロナ禍によって、2年ほどNHOの“良質な医師を育てる研修”が中止となりました。しかし、今回のように感染症対策に留意しながら再開されたことで、やはり直接対面による研修や講習会だからこそ、講師も含めた参加者同士のインタラクティブで有意義なディスカッションや交流を図ることができ、一方通行の教育公演や動画レ

クチャー、そしてオンライン講習では得られない有意義な学びがあることを改めて実感しました。

馬場…オンラインではない対面の研修では、体系的にスキルや知識を学ぶことができ、直接質問できることや直接交流によって多くの情報を得られますし、より理解を深めることができます。

NHOには、全国各地の病院に経験豊富なスペシャリストがいらしゃいます。NHOの“良質な医師を育てる研修”では、それぞれの分野に深いところまで取り組んでいるスペシャリストたちから直接教わることができ、交流を深めることもできる素晴らしい機会です。積極的に参加して医師としての幅をどんどん広げてください。



医学生や若手医師へのメッセージ

馬場…私が仙台西多賀病院に来て驚いたのは、医師だけではなくコメディカルの方も含め、教育に非常に力を入れており、研究発表も盛んであるということ。症例にじっくり向き合い、研究をしながら、医療の質をみんなで高めていくという風土があります。

日々、同じ診療の単調な繰り返しでは医師人生は楽しくありません。NHOには診療や研究を通して、もっと学びたいと思える興味のある分野をどんどん見つけることができる環境があり、長い医師人生を充実したものにできるはずですよ。

高橋…NHOの各病院は地域に密着した医療を提供しており、急性期から慢性期までじっくり患者さんを診ることができます。急性期治療後の回復期や慢性期まで一貫して診る機会が少ない大学病院や大きな救急病院とは異なり、NHOには急性期後の医療を担っている病院が多くあり、治療後の患者さんを最後まで診ることができます。

幅広い領域を学べるだけではな

く、NHOの各病院はそれぞれの強みを持っており、特定分野をより深く掘り下げて学べることも大きな魅力でしょう。

武田…医師は患者さんという人間を対象とする仕事であり、自分の全人格を含めた人と人との交流が基本です。医療AIはどんどん進歩しており、最後に残る聖域は、医師という人間であるからこそできる、『説得する』『共感する』『責任を取る』ことです。

NHOには地域に定着した歴史ある病院が多く、各病院の得意とするところは異なりますが、経営面を重視した“数をこなす”診療ではなく、いずれも各地域に必要な医療を追求し、患者さんの目線に立った質の高い医療を目指しています。患者さんとじっくり向き合いながら質の高い診療を学ぶことができるNHOでなら、AIがいくら発達しようとも、将来にわたって活躍できる医師になることができるでしょう。

神経・筋(神経難病)中級研修

NHO 講師

病院名	役職	氏名	役割
仙台西多賀病院	院長	武田 篤	講師&ファシリテーター
仙台西多賀病院	内科系診療部長	高橋 俊明	講師&ファシリテーター
仙台西多賀病院	脳神経内科医長	馬場 徹	講師&ファシリテーター
北海道医療センター	臨床研究部長	新野 正明	ファシリテーター
福島病院	院長	杉浦 嘉泰	ファシリテーター
東埼玉病院	副院長	尾方 克久	ファシリテーター
箱根病院	院長	今井 富裕	ファシリテーター
医王病院	院長	駒井 清暢	ファシリテーター
柳井医療センター	副院長	宮地 隆史	ファシリテーター
沖縄病院	神経内科医長	渡嘉敷 崇	ファシリテーター

SCHEDULE 2023

令和5年度は、9月に箱根病院で開催予定

IMPRESSION

参加した先生の感想

長崎医療センター 専攻医 辻野 耕平

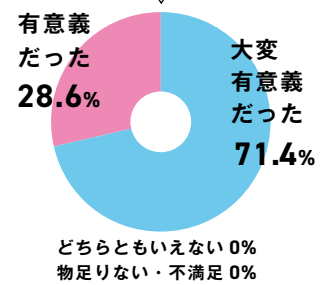


2022年11月12日に仙台で開催された「良質な医師を育てる研修 — 神経・筋 診療中級研修 —」に参加させていただきました。勉強会では高次機能障害、てんかん、パーキンソン症候群などの幅広い内容を、講義だけでなく、ディスカッションやグループワークを交えて学びました。神経・筋疾患で歩行機能が低下した人をサポートするロボットスーツの見学もできました。自分がこれまで身につけた知識・技術をブラッシュアップすることができたと思います。コロナ禍でなかなか対面での勉強会ができない中、同年代の脳神経内科を志す医師たちが集い、切磋琢磨し合うことができ、非常に有意義な研修でした。学んだことを今後の診療に活かしていきたいです。

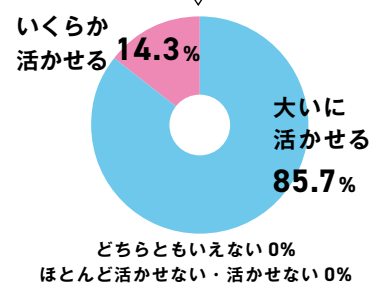
RESEARCH

セミナー参加者の声

Q 研修の感想は？



Q 今後に活かせる？



Q 集合型の開催形式はいかがでしたか？

